

就任のご挨拶にかえて

三 好 義 昭

本年4月から、前資料館長の宮下孝晴先生(教育学部)のあとを引き継ぐことになりました。遅ればせながら紙上を借りてご挨拶申し上げます。

平成8(1996)年1月に学術審議会学術情報資料分科会学術資料部会が「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について(報告)ー学術標本の収集、保存・活用体制の在り方についてー」を提言いたしました¹⁾が、「資料館設置準備委員会」が昭和63(1988)年11月に提出された「金沢大学資料館設置準備に関する報告書」の前文に「本資料館を将来 University Museum に発展させるための基礎づくりとして・・・」と述べておられるように、当資料館は学術審議会学術情報資料分科会が提言する遙か以前に将来のユニバーシティ・ミュージアム設立を視野に入れた遠大な計画のもと設立されました。以来、今日まで歴代館長はじめ資料館運営委員各位のご努力により、主として資料の収蔵・整理・保存を行うと共に、平成5(1993)年には、資料館2階の当初多目的ホールの天窓に紫外線遮断フィルム貼付を行い展示室に改装して以降、常設展示ならびに数々の特別展を開催。平成8(1996)年度から「資料館だより」を年2回発行ならびに「資料館ホームページ」

を開設。平成9(1997)年度には「金沢大学資料館紀要」創刊ならびに地域に開かれた大学の一環として、資料館主催の公開講演会を開催する等、ユニバーシティ・ミュージアム設立に向け着々と実績を上げて来られました。しかしながら、資料館の構想・設置準備段階での経緯から、現在の収蔵資料はほとんどが文化史資料となっておりますが、ユニバーシティ・ミュージアム設立に向け文化史資料はもとより、自然史資料、科学技術史資料の充実をめざす必要があります。さらに身近には、学内に資料館の位置や存在すら知られていない事実もあります。これは資料館の構造上の理由から、展示室を常時開館していないことが大きく影響していると思いますが、学内者向けの広報活動を充実する必要があると思われます。今年度から「資料館だより」の発行部数を増やし、附属図書館の「こだま」に準じて学内の皆さまに広く配布させて頂きました。また、新入生向けのパンフレットを作成し、来年度、図書館ガイダンス時に配布を予定しております。そして、試験的に先ずは定期開館を模索したいと思っております。

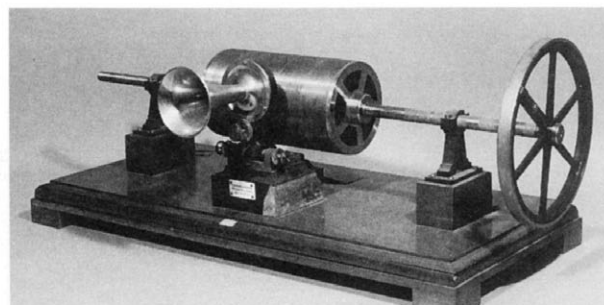
ユニバーシティ・ミュージアム実現に向け、皆様のなお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。
(資料館長)

収蔵資料紹介

発條付蘇音器 はつじょうつきそおんき

「発條付蘇音器」は、第四高等学校ー本学理学部ー本学教養部ー資料館と、受け継がれてきた「四高物理機械」のひとつ。録音・再生装置である。円筒を回転させながらラッパ状のマウスピースに音声を入れると、マウスピースに付けられた振動板が振動、その振動を振動板の中央の針によって円筒を被う錫箔に刻んで記録し、それを再生するという仕掛けである。購入年価格等は不明だが、明治初期に広く使用されたガノーの物理書(*Elementary Treatise on Physics*. Tokyo, Rairaido. 1895)には、イラストとともにこの器械の使用方法が記されており、明治期には

四高でも実験機器として使われていたと思われる。近代科学の導入期の物理学教育を考証する際の資料として注目される。「発條」はバネのこと。この場合は金属を曲げた平バネで、振動板中央の針を支える細い弾性のある金属板のことをさすと思われる。



【音響学 039】 発條付蘇音器